
はじめに

津軽地方を商圏とする青森港は、本州と北海道を結ぶフェリー航路を中心に、リサイクル鉄材、石油製品を取り扱う貿易港である。物流のグローバル化にともない貨物の輸送形態が、バラ貨物からコンテナへと変遷するなかで、コンテナ船が寄港する際の必要条件の一つである荷役機械設備を備えていないのが現状だ。

一方、青森港の背後には、潜在的に輸出貨物になりうる、リンゴを代表とするブランド力の高い農水産物が豊富である。全国には外貿コンテナ港湾は 60 港以上あり、世界に目を向けてみてもスーパー中樞港湾ですら競争が激しくなるなか、青森港が生き残るための中期的な物流戦略を構築する必要がある。一步踏み込むと、現実にはどんな戦略の実現性が高いのか、不可能なのは何かを見極める時期にきている。

本調査は、コンテナ船の試験寄港誘致を前提に東北エリアで製造される加工食品と青森県産のナガイモの輸出実務に同行調査を行い、「運送取扱人；フォワーダー」の視点で、課題を整理し、青森港が津軽地方の物流拠点として活性化するための中期港湾戦略の構築を目指すものである。



東京	～	基隆 (台湾)	約 2000 km
苫小牧	～	基隆	約 2800 km
青森	～	基隆	約 2600 km
秋田	～	基隆	約 2400 km
陸路			
仙台	～	東京	約 350 km
八戸	～	仙台	約 300 km